



上向台小だより

6月号
西東京市立上向台小学校
令和4年5月31日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

やる気スイッチ

副校長 河 又 学

「やらなくてはいけないのだけれど、やる気が出ない…」きっと、多くの方が感じてきたことだと思います。

東京大学社会科学研究所と、ベネッセ教育総合研究所が行った共同調査があります。「勉強しようという気持ちがわからない」という質問項目に、「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」と回答した小4～高3の割合は、令和3年は54.3%でした。令和2年は50.7%、令和元年は45.1%、2年間で9.2%上昇したことになります。

学校段階別では、小4～小6は43.1%、中学生は58.6%、高校生は61.3%と、学年が上がるほど高い傾向が見られます。

個人では、2年間で学習意欲が向上した子どもは11.2%、低下した子どもは25.8%でした。

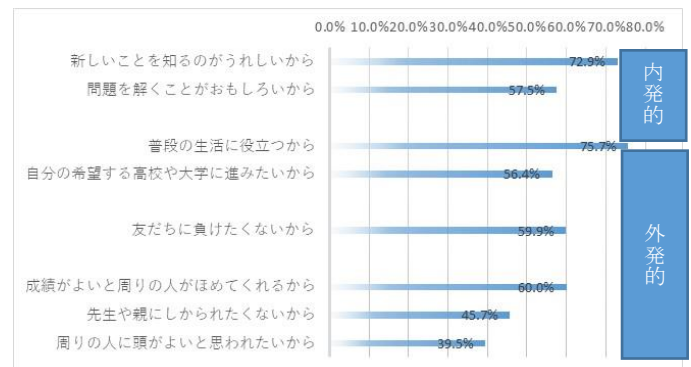
学校教育においても、「学ぶ意欲」は、大変重視されています。「学ぶ意欲」を考えるに当たり、「外発的動機付け」と「内発的動機付け」は欠かせない視点です。

「外発的動機付け」とは、賞罰、強制、義務といった外部からのほたらきかけによってもたらされる動機付けのことです。例えば、「テストで100点を取ったら、ゲームを買ってもらえる」という飴や、「宿題をしないとおやつは無し」という鞭のようなことです。

「内発的動機付け」とは、内面に沸き起こった興味・関心や意欲に動機付けられている状態のことで、外的要因に基付かないことです。例えば、「新しい

ことを知ることが楽しい」、「計算することが好き」、「地図に興味がある」といったことです。

これら2つの動機付けをみると一見、内発的動機付けの方がよく、外発的動機付けの方がよくないようにも見えます。これらに関して、興味深い別のデータがあります。「あなたが勉強する理由について、次のことはどれくらいあてはまりますか」という質問項目で、「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」と回答した結果が、以下のグラフです。



このグラフから、多くの子どもたちが様々な動機付けによってやる気を出していることが分かります。つまり、「やる気スイッチ」は一人一人違うということです。いくら自分が歴史好きでその楽しさを伝えようとしても、相手のスイッチを押せないことがあるということです。時によっては、できるようになったことを褒めたり、目標を設定・達成させたりすることの方が効果的なこともあります。

様々な学習意欲の動機付けを知り、どの動機付けが子どもたちにインセンティブとしてはたらくのか見極められるよう、上向台小の全教職員で熟慮してまいります。